

# 企業の強みとしての創業者の信念

## ～ ケーススタディ：アシックス① ～

アシックスは、1949年3月に「鬼塚商会」として発足し、9月には「鬼塚株式会社」に変えてスポーツシューズ専門メーカーとしてスタートしました。

鬼塚喜八郎会長は、平成12年に大阪で行われた『なにわ塾』での講演会において、アシックス誕生の背景には「戦後の神戸で出会った、戦争により親を失った子どもたちのすさんだ姿を救いたいという思いがあった」と語っています。



今では世界的な総合スポーツメーカーとなったアシックスの始まりが、青少年の育成だったということは意外ですね。

鬼塚会長は、「縁」を活かす才能があります。「青少年の育成にはスポーツだ」と思い立ったのは兵庫県の教育委員会を務めていた戦友の言葉です。物資が不足する戦後の日本では、子どもたちがスポーツをしたくても靴がありませんでした。そこで鬼塚会長は「靴を作ろう」と決心します。

その後鬼塚会長は、矢仲ゴム工業所という会社で靴づくりを学びます。やがて、1950年、「オニツカタイガー」ブランドのバスケットシューズ第一号が誕生します。



創立当時の看板



第一号のバスケットシューズ

鬼塚会長は講演で語っています。「(仕事で大事なものは) “動機は善なるや、私心なかりしか” ということ。つまり、あなたの仕事をする動機は、いったい何だと。金儲けが動機なのか。自分の私利私欲だけが動機なのか。それとも人のためや世の中のために役に立ちたいのが、動機なのか。それを自分の胸に聞いてみる。金儲けが動機だったり、自分の私利私欲だけが動機だったら、そんなものは志でも何でも無い。そんな人に事業は興(おこ)せないし、誰も協力しません。人のため社会のために事業を興すから、人々も応援し、社会もあなたを成功させるんです。小さな安易な目標では、誰も見向きもしません。」 目的が善なる方向であれば、必ず協力してくれる人が出てくるものだ、という精神がアシックスのその後の強さの源泉でもあるのです。

資料番号：戦略B-1-3

出所：アシックス HP <http://www.asics.com/jp/>

鬼塚喜八郎(2001)『念じ、祈り、貫く』なにわ塾叢書

『オニツカタイガー物語』(2005)ピエ・ブックス